大正十二年一月十日印刷納本 大正十二年一月十五日發行

光

第十九輯

大正十二年一月

◇天華香洞錄抄……西田天香
◇愛と自由との王國へ……松下吉衞
◇ながれる大根……三石勝五郎

同人懺悔報恩の奉仕者
祈願 不二の光明によれる生活
費用 供養されたる淨財

◇田ノ澤鑛山訴訟事件について……西田天香
◇夏期托鉢會の記……住田埴彦
◇燈影餘錄……敬偉無

一燈園・宣光社

光明祈願（暫定）

不二の光明は宇宙に遍滿する陽光の如し。物あり、之に觸れて色々の光を發す。光明祈願は即ち起稿者識界の現象に過ぎず。添すべく、削すべく、正さゞる可らず、改作また不可なし。暫定と名づくる所以なり。

不二の光明によりて新生し、許されて生きむ。

我等は先づ不二の光明によりて復活新生し、神に委ね佛に養はれ他に障りなき生涯を送らざる可からず。

諸宗の眞髓を禮拜し、歸一の大願に參ぜん。

内外古今諸宗の眞髓を禮拜すれば、歸一の大願は正に左の如くなる可し。

通願　皆倶成㆓就大圓覺㆒

別願　將㆓來世界眞平和㆒

別に一宗を立てず、單に一宗に偏らず、古今聖者の光を仰ぎ德を頌し、その遺されたる事業を成就せんことを期す。

懺悔の爲に奉仕し、報恩の爲に行乞せん。

世間一切の罪惡苦患、何人かその責を脫るゝことを得べき。願くば常に懺悔の心を持して十字街頭に奉仕し、菩提心によりて行乞し、以て法界成就の本願に副はんことを。

法爾の清規に隨ひ、世諦を成ぜん。

天眞法爾の戒相に則り、六度の行願に隨ひ、治生產業に即して眞道を行じ、永久眞平和を將來すべき生活法を實證し、以て在家俗諦を成就せんことを期す。

即ち天華香洞に歸り無相の樂園に逍遙せん。

達觀すれば實にも此世は寂光の淨土、妙樂の天國、文明の隆興も進化の事象も乃至清規戒行も、此の見地よりすれば則ち一の遊戲三昧に過ぎず。憾むらくは箇中の消息、もさよく言辭の髣髴し得る限りにあらざるを。暫らく此の實相に名けて天華香洞といふ。

天華香洞の門、假りに名けて一燈園となす。道に志して尙自ら立つ能はざるもの、乃至老、病、幼者等の爲めに設けられたる一の化城とも見る可し。その存立は喜捨の淨財に成り、在園はその淸規によりて許さる。

天華香洞に立ち、信託を受けたる財物事業の整理經營等に從ふを假りに名けて宣光社といふ。宣光社の目的は世間の執迷紛爭葛藤を根絕し、以て齊家、治國、平天下を期するにあり。

天華香洞と一燈園と宣光社と、三位にして一體、通じては即ち無相不二。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

天華香洞録抄

——（大正四年中のものより）——

西田天香

○種々方便

六萬行願を骨髓となす。

啓眞教育を以て眼目となす。

賣買組合を以て手となす。

勞働紹介を以て足となす。

食堂調止を以て口鼻となす。

財物整理を以て腹胴となす。

勞働托鉢を以て胸となす。

救靈方便を以て腦となす。

第三黨策を以て運動となす。

○天華香洞同人は地上に天國を作る骨子也。

第一基礎犧牲者は居士詰也。

法身維摩を本地となす。

之をなすには今より極力佛心と首引し、一呼吸をも苟もせず。根本的に德をうずみ正念相續し六度萬行をはげみ、かりそめにも懈怠せず。

しか爲すには三世諸佛加護を得ねばならぬ。

精進、節制、々々々々、あゝ任重道遠。

○ベルグソン、オイケンの時代はや過ぎんとして印度哲人タゴールの時代たらんとすと人はいふ。タゴールは嚴肅單純なる生活を基礎とし戒相をくづさずに生活することによりて自然に歸還し悠々自適し得るものと提唱するよし。しかも現實を如何に整理するかについては具さに案なきに似たり。

○次ぎに將に來るべき時代は遂に一燈園か。一燈園の佛は現實と深き接觸力あり。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

○六萬行願實行理由

將に來るべき時代の要求に應ぜん爲め

世界大戰爭戰死者追福の爲め

今上天皇登遐御大禮の爲め

期成世界眞平和現成の爲め

生活法の大改革の爲め

大丈夫兒人天師佛の大業なるが故に

一切問題の根本解決の爲めに

明治天皇陛下乃木大將並に今上皇帝陛下及び父母等の追福又は孝行の爲め

○啓眞塾綱領

（中學入校不可能學生收容）

一、尋常小學高等小學兩卒業生收容

一、根本目的　個性本來具有底の眞を啓發するを目的とす

一、方法　第一　佛に養はるゝことを勉む

第二　自然動によりて養はるゝことを敎ふ

第三　此餘暇を以て必要なる學術を授く

一、本則は合宿法とし別に通學法を置く

一、午前半日は商家見習をなさしむ

一、自午後二時至六時四時間を以て授業時間とす

一、敎師は法縁ある敎育者及び大學生を以て之にあつ

一、授業料及び食費一切必要なし

但し其父兄たるものは一定の金額を此方法による將來の大發展の爲めに節約を以て佛に還すこと

金にて爲す能はざるものは何等かの法にて之を爲さしむ

一、此主意に贊助するものは此少年半日の勞働に對し午飯と外に米五合を與へること

一、朝食夕飯は此五合にて支辨のこと

一、衣服及び文具書籍は父兄の家よりすること

一、朝四時起床、掃除、靜坐、讀經、朝食を終へて六時出校、名々の家にかせぎに行くこと

一、一定の服裝をきめずその店々の着物にて差支なきこと

一、校舍敷地及び校用器具は淨財喜捨とす

一、校長及び敎員は皆無報酬也。

○大正四年四月十九日於河道屋

時は是千載一遇なり

日本帝國中興之聖帝明治天皇及昭憲皇太后兩陛下追福
大正新天皇即位大禮奉壽
歐洲に起れる未曾有世界大戰爭戰沒者追福
同上病傷者平癒輕痛祈禱
世界之眞平和天國實現の爲下種聖業

根本的解脱及徹底的解決
不二眞光無相佛現出
維摩法身大士垂迹
一切既成宗教大成就

斯かる好機、斯かる好題目、斯かる好因緣、又とあるべきや。我は唯一小愚魯の寒生なり。而も此好日受天啓其任に當る。光榮何ぞ是に如かんや。噫、何たる幸福ぞや。

一、徹根皆懺悔
二、脱却世界眞入如來地佛々相見
三、受使命還到本國入店垂手
四、依因緣現出維摩身顯不二
五、爲契緣結成六萬行願（十年計畫）
六、愛我信我者與參加此萬行願

○食正しからざれば胃弛む。胃弛めば筋は無理な負擔をなす。此時處々塞迫血行不順呼吸堂々下腹よりする能はず、清氣鈍り妄執多し。

思正しからざれば精神弛む。精神弛めば生活は無理なる負擔をなす。此時一切周圍塞迫愛心不順解脱正念堂々佛と相通はず。神氣鈍り妄念多く生活惰弱破戒無慚となる。

食正しからざるは非なり。され共容易に正しうする能はざるを如何せん。是を爲すには

第一　强きものは決然として信念を起し集積せる誘惑の中に立つて毅然として妥協せざれ

第二　弱きものは周圍の清き規律の正しき處を選みてその處に移り住め。如此は難事のやうなれ共、實行すれば易きなり。難行に似て易行なり。

第三　一度此戒處にありて正しうし、而して後集積せる誘惑の巷に出入して以て他を度すべき也。

如上の事は思正しからざる事についても同様なり。

一燈園は此兩者の第二の目的地たる也。たゞ、この道場

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

たる自家に用事を作らず一切誘惑の巷を以て道場となし日々入店の必要あり。是に於てか朝夕の督勵なかるべからず。

○呼吸正しく堂々壁立萬仭なれば、胃の弛緩を許さぬやうに各部緊張隨つて食正しからざらんとするも能はざるに至る。毒をのむも、はき出すまでとなる。

法身宴坐して壁立萬仭なれば、身體の弛緩を許さぬ迄に各周圍緊張する。隨つて思正しからざらんとするも能はざるに至る。誘惑ありて宴坐をさまたぐるあるも直に本所に還り來る。

一燈園は如此故に能くそれに堪ふるときは所謂動中の工夫となつて功多し。もしたへぬときは誘惑の爲めにまけるなり。又一方よりすれば此一切誘惑の巷を遠離せぬ處に多衆の人の試みたき氣持も起るなり。淸き場所戒律堅固を標榜せば緣少くして來らざるもの多かるべし。

○眞宗は煩惱即菩提を生活の上にも惡應用し、禪宗にても不離當處の妙業を直ちに授すれ共殆んど悉く其業毒にあてられて邪見無慙となる。一燈園は此濁中に淸節を失はず、究竟解脫に煩惱即菩提不離當處を體得さする迄は淨土を建立して此地獄の苦を免れしむるなり。獅子は子を常に谷に落す。一燈園は此親の心なかるべからず。それには如何にしても一の表示が必要なり。救世軍の服裝の如き僧侶の法衣の如き不得已必要より起りしもの也。

○信念の力は大なるかな。如何なる誘惑も是によりてのみ勝つことを得。

宴坐の力は大なるかな。如何なる生活上の誘惑も是によつてのみ勝つことを得。

常々不敗の呼吸によつて生き、常々不敗の行事によつて活きよ。之を立體的壁立萬仭といふ。是即〇〇也詰居士也南無阿彌陀佛なり無也釋迦牟尼如來也。

○余の胃の病によりても人が到底自力にて誘惑より脫すること能はざるを知る。唯此誘惑より脫せしむるものは一に無心の力なり。呼吸を無相の底よりなせることのみなり。

生活に於ても亦然り。唯、如來白毫中より養はるゝ時に於てのみ、あらゆる問題を解決することを得るなり。

寸時をゆるまず此一念子をねるとき我は必ず佛勅を全うし得べし。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

○大正四年四月三十日　東京堤氏宅に於て

一念々起是迷之始也
一物所有是苦之源也
　多念者遂爲無念被敗
　多所有者遂爲無所有被苦
一念不起不所有一物、三界之王、任于此境涯以臨三界衆生隨縁垂方便以濟度一切也

○今日は死すものなりとの覺悟いつも必要也。

○靜かに丹田の底より呼く息は是祈也。南無阿彌陀佛といふも、又南無妙法蓮華經といふも、此呼吸をはなれては生命なし。鼻孔より常に壁立萬仞的に付く息は身體各部を調節して萬能の醫王なり。

　常に靜かに下にありて壁立萬仞的に他の爲めに動くは此の呼く息に同じ。此の生涯は世を天國にするの力あり。

　今や度世のことは誠に簡單となりぬ。神よく〳〵とさけぶことにあらず、來りて救を求めよく〳〵とさけぶことにもあらじ。唯自ら眞に神に還るにあり。神は極めて嚴肅に審判したまふ。唯神の旨に違はざれ。

自然に動け、己れのものといふことを一切思ふな。己れのものゝ姿を抛ちて自然に動けば是自然なり。此自然こそ人より見れば愛となり十字架となるなり。

○同じ働きを己れの家に於てなすこと、人の爲めに少しの感動の力とならず。己れの家を抛ちて唯爲すこと人は非常に感動す。是事實なり。而も人は己れといふ家に爲すを喜び、無相になすを喜ばず。神を信ぜざるが故也。自ら銘うたざれば與へられずと思へばなり。

○經濟的に於て余は如何なる敵にも後を見するものにあらず。『活きねばならぬ』と思はざればなり。此意味に於て敵の前にもはやその身を現さず神通自在なり。

　しからば、今、白刃を以て前に起たるゝ時、同じく身を自在にかくし得るか。然りたしかにかくし得る也。三密相應すること身は光明となる。劍道の奥技是に至つて全しといふべき也。野狐的技術は我れ是れをとらず。一切怖畏を脱し自然に任ずること、それをもし打つものあればそは自れ敗れつゝあるなり。

　いつも此無相に住す。如何なる敵來るも無事なり。若し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

技巧を弄せば敗因此處に兆す。

他をして劍を持たしむ。是れ我力なきなり。眞の力量あるものは先づ敵のもてる刄を彼自ら捨てしむる也。

劍士いふ、敵の打たんとすること既に間隙ありと。されど我思ふ、彼れ我に對すること既に若干の間隙あり。更に思ふ、我無相の鏡にてらすとき、彼れ自ら我と自意識あること既に間隙あり。他の爲めに爭鬪の對象としての我を雲につゝみ得るものは何ぞわづらはしく劍を學ぶの要あらむや。如何なる劍士も自ら我手を截つものなし。我れもし他を愛して他の爲めに在らば、彼は我を見ること彼自身を見るが如けんなり。之を眞に匿身法といふ。

○他をして刄をとつて求めしむる間は、如何に匿身に妙を得るも未だし。彼をして刄を捨てしめよ。身を匿すは身を光明にするより劣れり。飛行自在は單坐して彼をして拜せしむるに劣れり。

○餘暇あらば文を學ばん、餘暇あらば武をも學ばん、餘暇あらば術をも學ばん、餘暇あらば藝をも學ばん。併しながら先づ我等は忘るべからざるものあり。何ぞや。道に住することなり。一行三昧に住することなり。

此一行三昧、是れ百戰百勝の術也。無敗不死の法なり。もてるだけの術、學、武、藝は、之を與へて以て方便となすべし。しかも知らざるを强ひて知るの要なきなり。必要なるは一行三昧なり。

○力必ずしも尊からず。善き力こそ尊けれ。定力必ずしも尊からず。第六天に魔王あり、定力、佛とひとしとも說きたまふ。善きは眞の定力なり。

此善惡は佛よく之れをさばきたまふ。善きもの、善き果を結ばざるはなし。惡しきもの、惡果をむすばぬはなし。たとへ、餓ゑかわく如く善を望む心ありとも、その見もしあやまち居れば結果少し。たとへ、又一塵のほこりをもつけず見性明了なること明鏡の如くなるとも、一切の罪に對し無緣の慈悲心起らざるものは全からず。明鏡は如何なるものをも如實にうつす。人は一切に對し緣に應じて如實に無相の垂手をなす。

○水はかならず低きに流る。瓦斯をつめたる球は必ず上る。善き事のあらはれざるは未だ曾てあらざる也。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

○一起直入如來地なるのとき、その時一切國土悉皆成佛なり。歩行すれば歩行なりに、坐せば坐ながら一切成就底なり。唯此境をしてそのまゝ貫かしめねばならぬ。之を貫かんとするときは、一先づ三界無住、樹下石上三衣一鉢の身となりて證明するの必要あるなり。又召されて三界にあるも一度は無相界に還らねばならぬ。此事今人絶えてなし。故に實生活は此境に即せるものにあらず。不二の故になせるにあらず皆執着なり。故に力なし、神通なし、救濟の力とならざる也。

○この安居、人以て耐へずとなす。而も是まことに易きなり。人の此天地に來るとき、かゝる安居場所あるを證せしむるときに全し。かゝる安居場所は自然に與へらるべき筈なれ共、若し之なきときはと衆生の疑ふに對しては、十字街頭を示さゞるべからず。十字街頭を示すときは、人また、そは得らるゝに相違なきも不安なるを如何せんと危むなり此場合に於てはその不安ならざるを示さゞるべからず。示すは已れの不安ならざるに如くはなし。

人の捨てしものに身をまとひ人の捨つるものに肉をやしなひ人の顧みざる所に露をしのぐ。かく大德を埋み大聖業を爲す。之を知るものは佛なり神なり。眞實なるものゝあらはれざるはなし。天理敎のかくなりしによつても明か也。

○傳道するやうな間隙をもつな

讀經するやうなひまをもつな。

有數のしかも人なみの耳をすまして聞かんほどの聽者に不完全極まる言辭をもつて說法するほど詮なきはなし。それよりは無限の聽者しかも無相の感激を以て聽くべき一切の中央に宴坐して不言實行の大雄辯もつて獅子吼せよ。若し無理に招待されて不得已ときは唯かくせよ、かくされたし、又かく我はありと權威を以て臨むべし。この事なし能はざる間は絶えて坐に登るべからず。

○維摩曰、富者に執して托鉢する勿れ。又、貧者にも執する勿れと。まこと也。我等は常に一切の前に起つなり。その富者の前に立つも貧者の前に立つも差別の念を起すべからず。大切なるは已れの正念にあり。已れの光明の强弱にあり。光明もし强からば臥すときといへども自然に傳道しつゝある也。光、明かならざるときは、たとへ壇上にたつ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

て幾萬の聽衆に對して長廣舌をはくも此處あることなし。猿公の飛び泣きさはぐは、獅子のねむれるに比すべからず。

唯々作爲すべからず。自然に從へ。十方に遊歩行乞するは、猶からだのいたみを手もてなでるが如し。衆生病むが故に無緣の慈（無意識）によりて十方に遊歩するなり。

而も唯其澁滯を摩すのみ。之を癒すはその人々の信にあるなり。藥毒を殘すことなく、無事に癒すは有意の作爲をなさゞるにあり。若し己れの分を忘れなば反つて全體の病の根をたつべからず。己れ正念に住し三心不可得の中心を離れずに無相自然の事をなすに止むべきなり。

○一心壁立するとき全身に靈牲の柱立ちていかなる病氣もその根より癒せずんば已まざらんとするの運動あり。岡田式正坐にあらはるゝ震動是也。

宴坐も亦如此。一人三衣一鉢捨身するとき法界に大震動を起すなり。而して如何なる葛藤に對しても根本的整理を要求するなり。

○此一心生ずるとき是無我なり。此無我相續するとき大なる靈的結果あり。直ちに人界に歸る、玆に此靈動やむ。天理教祖の二日に亘る此光耀大に參考にすべきなり。

下にありて無相の作務を爲す、周圍みな震動す。既にして休すれば周圍みな休す。之を相續すれば靈界活動す。一行三昧六萬行願は即此不斷の靈動を要求するなり。

○零は無限大なり。

一度己れの家を抛棄すれば己れ宇宙の大家の眞中央にあり。一として己れの家ならざるはなし。己れその中央より動き出すとき、人の爲めの働きといふべきものもなし。一切は神のものにして同時に己れの動くまゝに任せつゝあるなり。然るにみだりに人の家に入らずに十字街頭にたつは人の執をあはれむが爲めなり。

人何程かの物を所有すと號す。人の法律は暫く之を許すとあれ共、天は永久に之を許さず。故に所有の處なやみあり。之を天に還し一切の爲めに預るときになやみなく權現のはたらきを爲すなり。

○一切を得んとすれば是非一度我所有をはなれざるべからず。己れの權利を捨てずして、天に許さるゝことなし。

○一燈園は此眞中央にたつもの、安居場所なり。一燈園は

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

自らの爲めに働かず、又他の爲めにも働かず、唯自然に動くなり。自然の場所を人は我有と執す。故に動かんことの許しを乞ふなり。是を他よりしては人の爲めに働く感心な體度となす。何ぞ賞せらるゝに價せんや。動きたる結果をその處にそのまゝにして、唯少しの必要なる食物を佛に與へられて安臥す。是第一安穩の法也、自然の生活也。人は此生活に不安を抱く。是れ自然を信ぜざるによる。

自然に動き天地のものを自由に動かし、又是を天地に預けて安眠する此の我等の體度を人よりすれば自分の家へ一燈園の人はきて下さつて澤山にはたらいてもらひ少しもその價を取らずその働き上げたものも少しも所得せで歸りたまふ。稀有の人なり、と歎美す。おもしろいものなり。

○一度、不思不惑の天地に還るとき、人は無邪氣なる童子の頃より色々に智慧づけられてよいかげんにこりかたまりたる事に驚き氣付くなり。をさな子に歸らねばならぬ。思ひのもつれ筋のもつれをはどけ。佛とはほどけの意なりと。妙なり言や。

○錢眼禪師は靑錢一文の托鉢をなして餘を願はず。强ひていはれて弟子一人を將軍に求む。三葵の紋所を金にて笠のうらに書きたるを弟子にかぶせて托鉢したりしとかや。

○我一食の外、何ものをも要せず。一食あれば半日の働きを供す。若し强ひて求むる所をいはしむれば、此聖業を世界の上に解放せよ。一國の爲めに用ひずに世界の爲めに貢献せしめよ。我豈命を惜しまんや。之を世界に提供するは日本の眞の名譽にして又日本が世界を平和になし得る根元たり得る也。

○我れ自然に働く處、人皆喜ぶ。人喜べば何のさはりもなき筈なり。

人の喜ぶべきことをなすもの增加する、是れ國家として何の損があらむ。

能く働き自ら貪らず怒らず謙德を守る。如此は之れ良國民にあらじか、忠孝の人ならじか。己れ自ら所有の必要を執せざるは、物を粗末にするの故にあらず、人の喜ぶを喜びとすれば也。

人に主たるものは、家の子にもたせて主たるなり。國に君たるものは、自ら空しうして臣民を愛することによりて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

君たるなり。一切の人にもたせて一切の人を愛するは、是れ神の子の必然の要件なり。
一切の人に歸服せられなば一切の人にもたせて是皆我有也。
已れを擴充して世界の平和統一を望むはあやまれり。若し眞に世界を統一し平和を望めば、已れを空しうして後、始めて得べきなり。
今日世界の文明法律百般の學、皆自己の擴充を目的とす。自我の主張、權利の主張を目的とす。葛藤なからんとするも得べからざるなり。
△△外交の問題も亦然り。自ら與へずして彼を歸服せしめんと爲すは難し。方今有識者中には國民同志の親善を必要とすといふものあり。誠によし。併しその親善なるものは、少くとも犧牲を意味す。彼れ信ぜず、故に我れ信ぜずといひたらむには、何時も親善は得べからず。彼れ信ぜざるも我より信ず、彼れ與へざるも我より與ふるによりて始めて親善なるを得るなり。外交の骨子も亦こゝにあるべし。然りといへども外交は衆團の結果なり。一人自覺して犧牲

になすと同一なる能はず。故に國民多數の自覺を必要とするなり。
權利の主張と親善とは到底一致せず。眞正の權利のみの主張ならば自他親善と一致すとは唯空想なり。
○□□をして承諾せしめようとする案
佛が戒相を人に强ふると同じやうな、双方國家の爲め又東洋の爲め適當のものならば、政治家として、さうさせることは惡しくない。自國の慾を基礎とすればあしき也。若し正當のことならば之を承諾さしてその間に國民は能く□□國民と溶合はねばならぬ。
○佛(神)によらずして平和を望むも遂に得べからざるなり
○たとへ、三千大千世界を度し盡すともその功は自ら受くべからず。如何なる不遇のものといへども若し一念此信を起せば、そは天國建設の聖業に參加せしなり。功を已れに受くるは危し。人に後れてたのしむは最も必要なることなり。かゝる意味に於ていかなるものも眞に天下を憂ふるものは、いつも赤裸々たるの必要あり。
○『三井と三菱』なる書を讀む

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

いかに多くの富を集むるも唯一個貪夫の爲せる業也。國の爲めになせるといふも富が爲したるなり。富は多くの人の汗なり。多くの人のなせることを一部のもの丶爲したるが如く見ゆる處、人の心を動かさしむ。三菱富むも家人必ずしも樂しみあらず。三井富むも同族いつも不足多し。幹部徒らに大なる責任を負ひて人の羨望と怨嗟の中心となり心慢り氣高ぶりて少しも道を思はず。人の心を根本より救濟し得る底のこと一個半個もなし。

富は天下の富なり。之を私することに於て苦痛多し。赤裸々の人格に於て秀づる處なくば遂に苦たるを免れざるべし。

一人の魂を救ふは百億の金を得るよりもまされり。況んや幾百千萬の人の光りなることをや。我等は光榮なり。

然らば富豪は如何にすべきか。

第一　自ら赤裸々となり三衣一鉢となつて佛に歸依し

第二　從來の罪を懺悔し

第三　そのもてるものを一切佛の名によりて供還し

第四　再びそれを自分が預り

第五　佛の道によりて整理し

第六　雇人に此事に隨喜せしめ

かくして事と人とを整理すべき也。

○何事にても一藝一能に秀づれば世界の珍寶となることは出來る。柔道の達人が大統領を弟子にもち、相撲が天覽に上るも是れである。併し人はその優秀なるべき熱心精勵を學ぶもその事を穴勝によいと思うてはならぬ。柔道相撲では到底人の根本的滿足を買ひ得ぬのである。榮辱を度外に置き最も善き事を陋巷のうちに施して神の照鑒をたのしむが人各の最高なるものである。

○如何なる事をも料理が出來て而も尙愚魯行乞するにあらずんば度世の事成らず。幼子の如くにならずば天國に入る能はざれども幼子に大人をも度す慧なくば神の子にあらじ。

○修行には一滴の水をも洩らさぬやうな心懸が必要である。

○業を文筆に立てるものは是はこれ剃頭の俗人なりと呵する第一義の境涯より下りて雪舟は畫界の巨擘となる。畫界は雪舟を賞めたゝへるが、その雪舟たらしめるには第一義の力を認めざるを得ぬ。

哲學者はその智識階級には大なるものとして尊まれて居れども、矢張第一義の餘德を浴びざるを得ぬ。尊き智慧は第一義の隣りである。學ぶものも亦不知不識第一義の餘光を感受してゐる。唯一分のさはりの爲めに此根本無相の光りを見ずにその智慧の上に何ものをか建立せんと企てる。

一度、雲中に飜入して如上の界を下瞰すれば、あゝ我れながらありがたいかな。第一義は深く人生多數の根本より力を得せしむ。力なきものなれども、一度智の建立を認容すれば、哲學科學は大なる權威あり。神を失へる人の唯いはれなく隨喜するも亦已むを得ざるなり。しかも何程待つも救はれることなし。故に遂には失望して第一義を求むるなり。若し此の光りにあびたるときは即座に救はる。而もその狀態たるや、極めて平易且單純なり。莊嚴なし、世俗の眼をよろこばすことなし。故に『これでよいのか』と不安の念を起さしむ。

基督曰く、凡そ女の產みたるものゝ中、ヨハネ程の大なるものはなし。され共、我を信ずるものは如何なる小きものにても更に大なりと、何事も知らざるも、ほんとの第一義、神を信ずるものは大哲學者よりも尊し。それ八萬の法藏を知るといへども、後世を知らざるものは愚者なりと蓮如上人はいへり。

○本號表紙題字 は、京都紫野大德寺の開山大燈國師の眞蹟、海內隨一の稱ある所謂る眞珠庵墨寶よりいたゞきました。承はれば、水戶の義公、深く國師の遺風を慕はせられ、懇望して之を紫野に得、傳紹弃藏せられてあるものとのことです。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

愛と自由との王國へ

松下吉衛

一 人間久遠の欣求

プラトーの『理想國』を初め、社會主義者、哲人、藝術家等にして無何有郷を憧憬し之を文書にあらはせるもの、その廣く世に行はれてゐるだけでも、優に十數種を數へられようし、又、クリスト教徒の共産社會、オーエンの平和村、乃至わが武者小路氏の新しき村等、理想社會を地上に建設せんとする實際運動の例も、その數、決して少くなく、將又、何人にしても、苟も彼が眞面目に生活して行かうとする限り、その腦裡に望ましき社會を畫き、一歩にても之に近づかうと祈らないものはあるまいと思はれるが、さうした理想社會の內容は、要約するに、人々互に『愛』によつて結ばり、各人みなその性能を『自由』に伸ばし得る共同生活に外ならないであらう。

『他』の中に『自己』を發見し、『自己』と『他』とが渾然として『一』に融け合つた實感を、私は、『愛』と呼ばうとする。同じく『他』と云つても、特定の一人に限られたるあり、同性なるあり異性なるあり、家族的なるあり、知友の間に及べるあり、進んでは、有緣無緣の衆生より、普く禽獸木石にまで擴大されたものさへあり得る。彼の大覺者聖者と稱せられる人々に至つては、敵をすら愛し、そのために祈らずにゐられない至深の要求をもつてゐたものと信ぜられる。

『愛ある所に神あり。』とは、トルストイの言であるが、まことなる『自己』の姿は、『愛』の鏡に映して初めてそれと冷暖自知される底のもの。この場合、『自己』とは即ち『神』だといへやう。身體がそのまゝに『自己』でないことは、わかつてゐる。意識をさながらに『自己』の本體と見るは未だしである。所詮は『愛』の體驗に訴へ神を見るに非ずんば、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

『自己』遂に求むること出來がたいのであらう。世に人格の價値、個性の尊嚴を力說するものがあるけれど、若し『自己』のまことなる姿を見ずして漫りに之を口にするのなら、謹まねばならぬこと〻思ふ。

社會主義者は、當來社會の標語を揭げて『能力に適する生產、必要に應ずる消費』となしてをるが、人々の間に『愛』があるなら、これは、たちどころに實現される筈であらう。その時、强制と搾取とは跡を絕ち、貧民と閑人とは見られなくなり、各人は正しく働いて等しなみに養はれ、かくて、時間と精力との餘裕を惠まれて『自由』にその性能を伸ばすことが許されるであらう。その結果、文化は著しくその內容を變じ、又進展の度を增すにいたらう。

人間久遠の欣求は、かくて、初めて充たされること〻なる。

二　あるがま〻なる世相

しかもあるがま〻なる世相は如何？

無產者として產れ落ちた以上、極めて少數の選ばれたる者を除き、生きるためには、その勞働力を賣ることを强ひられ職を得る上に於いては、仲間同士の激烈なる競爭を不斷に餘儀なくされてゐる。彼も人間なる限り『愛』さんとする要求の時にきざさぬ筈はないが、生活苦の壓迫は、それを若芽ながらに蹂躪つてしまふ。又、彼にとり一番苦手な問題の一は、性慾についてゞあらうが、サンガー夫人を罵る前に、廢娼論を唱ふるに先だち、社會は、彼に性慾を淨化すべき敎養を與へ、且これを適當に導くべき用意を整へるだけの責任がなくはないか？　性慾の如何なるかを、少しでも考察したことのある者なら、この提言を否まないであらう。

勞働者は、いふまでもなく、社會の大多數を占めてをり益々增加の傾向さへあるのであるから、彼等の間に『愛』がないのは、とりもなほさず、社會全般にうるほひの失せてをるとを意味し、『自由』が彼等にとり法律上の空文に過ぎずして何等の現實性を帶びてゐないとすれば、彼等が屬してゐる社會の文化は、かぎつて階級的積廢的であると信ずべき理由がある。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

生活が人間を支配することの決定的なるは、通常、考へられてゐる遙かより以上である。一面、生物なることの否まれやうのない人間に適應性のはたらくは、理の當然であつて、勞働生活を續けた者に、彼れ獨特の感情、思想の馴致されるが如く、有閑階級者には、また文化を過重したり、觀念の遊戲に囚はれて自ら高しとする獨斷論に傾く者が多いのも免れ難い所であらう。かくて現存の社會組織の下には起ゆるとの許されない溝渠が深く穿たれ、一方が他方を理解し能はざる如く、他方も亦一方に對して一體感をおこす術を奪はれてゐる。階級鬪爭は、少數者の意見が之を否認しようとすまいと、必至的であると信ぜられる。勞働階級的生活と資本階級的生活と、全然その本質を異にする此等二つの生活様式が、一つ社會に時を同じうして存續する限り、如何に、社會政策の施行を見ようが、一部資本家に謙讓の精神が起きようが、乃至世を憂ふる少數の學徒志士宗敎家の敎化運動が行はれようが、ほんとうに調和ある世界の出現することは、恐らく、望みがたいであらう。

今、世上に蟠る紛擾苦惱を一々仔細に點檢し來り、原因より原因へと還元すれば、この階級對立の生活からにじみ出づる毒汁に禍されないもの〻極めて稀なる事實に誰しも一驚を喫せずにはゐられまい。

隨所に頻發をみてゐる同盟罷工、工場閉鎖、小作爭議は云はずもあれ、その日〳〵の生活に追はれつ〻ある無算の貧困者がある一方に操業短縮事業中止の行はれてゐる事實、働かうにも職のない夥しい群衆がある時、信ぜられない程の驚く可き浪費が社會の一角でなされてゐる事實、病んで醫療を受けられない者、家計の助けにとて賣られ行く少女、老いて養はれ難い者等の悲慘すぎる多くの實例、すべてかうした現象を、單に新聞の三面を飾る『讀物』扱にしてしまへば、別に大して問題にもなるまいが、之を自家の出來事として見るなら、何人もたゞぢつとして眺めてゐるには堪へられないし、その解決を計れば、きつと經濟問題――金錢のことに觸れて來る。

彼の慘虐きはまる殺人事件の如きも、性的關係、種々の怨恨等複雜な事情が其の間に纏綿してゐるものも多いには相違

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

あるまいが、生活苦――金錢問題に關聯してゐないものは極めて稀であらう。

その原因は如何にもあれ『女たる性』が、解放されんとして、今猶いちゞるしく虐げられつゝあることは、また、蔽ふべからざる事實である。藝者娼妓の存在は、いふまでもなく、之が何よりの證據であり、一家の主婦について見ても、資本階級にあつては空疎なる裝飾品に、勞働階級にあつては粗雜なる道具扱へにされてゐない者は稀有であるといつてよからう。相愛の『男たる性』と『女たる性』とが、道理上の根據あるに非ずして、結び合ふことの許されない悲劇を吾等は餘りに見せられ過ぎてゐる。

轉じて、之を文化について見る。社會の大多數が發言權を奪はれてゐる文化、社會の大多數にその生活を支持させてゐる少數の資本階級及びその擁護者のみの享受し創造し得る如き文化！　文化そのものに罪はなからうが、私はかういふ文化の存在を呪はずにゐられない激情を感ずる。人々の間の『愛』を犧牲にしてまで、調和ある社會生活の建立を後廻しにしてまで、文化の發展を計るの要いづこにあらう。奴隷制の存在が、ギリシヤ文化隆興の必須條件であつたといふ理由をもつて、それを正當づけることは出來ないと思ふ。

學問藝術に對する過當な評價が、人を賊し世を誤つてゐること、決して少くない事實は、今の青年子女の風潮に瞥見を與へるなら、直にそれと會得されるであらう。青年子女、特に資本階級に屬するそれらは、生活の現實に對して餘りに無關心すぎはすまいか。彼等の多くはその身に着けてゐる一片の綿布でも、何人によつて如何にして生產されたかを知らうとさへしない。それには紡績工女の犧牲の血痕が滴々たれてゐるのに彼等は見むかうともしない。父兄に生活戰をさせて置き、自分はその所得に寄生しながら、口舌にたゞ學問の權威と藝術の至上を說いてゐる者が彼等の間には多く見られる。私は『詩を作るよりは田を作れ』と、萬人に對してひとしなみに强要しようとするものではないが、衣食がなければ生きられないといふ、平凡といへば此上なく平凡な、人生の第一次的事實に彼等の注意を呼ばずにはゐられない。どうした風

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

の吹き廻しか、近頃、論壇においても『文化生活』の提唱、可なりに喧しいやうであるが、論者は民衆の生活苦を如何に見んとするのか？

大悟した覺者には、この世をこのまゝに、天華の妙香、馥郁として薫ずる寂光の淨土と達觀し得る境涯もあることであるが、いづれは、吾等凡愚の集團生活であつて、現實に、お互なやみを感じつゝあるのであるから、たゞこのまゝでよいでは、すまされないであらう。

『いのり』は、こゝに必然に生れる。

三　現代人の悩み

『無明、忽然として念起す。』といひ、又、人類の祖アダムとイヴとはエデンの花園において禁斷の智慧の果を蛇の誘惑にあつて食んでから罪を知つた、といふ傳說の暗示してをる如く、人間の罪とか悩みとかいふものは、創世以來のことであつて、その發生した起因については、これまでに、まだ、充分な解釋が與へられて居らず、又、果して之を斷滅し切ることの可能であるかどうかも、一つの大きな疑問であるが、それはそれとして、現代に生きる吾等の悩みが、その深刻なるにおいて、又、その內容の錯雜してをり、その性質の纖細になつてきてゐる點において、曾てためしなきものであることは、蔽ふ可らざる事實であるといへよう。

古代にも奴隷はあつた。しかしながら、彼等は個性に目ざめてゐなかつた。中世にも性の悩みはあつた。しかしながら地は猶ゆたかであつた。現代は即ち如何？　文藝復興を經て來てゐる、産業革命に遇つて來てゐる、又、フランス革命をくゞつて來てゐる。その民は、文化を知つてゐる、生活苦を體驗してゐる、そして個性の自覺をもつてゐる。これ．その悩みの深刻錯雜纖細をきはめる所以であらうか。

マルクスの大創見たる經濟的史觀に從へば、社會組織進化の理法として『ある社會組織は、社會の生産力がその組織內

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

で出來る限りの發展をして了へば、必然に崩壞する。』とある。今、まのあたりに進行しつゝある内外種々なる社會現象にてらして考察しても、この理法を眞理として受け容れないわけにはいかないと思ふが、この見地から現代を觀望すれば、資本主義の社會組織は愈々行き詰つて了つて、今や、ある別種な新社會組織――それは如何なるものであるにしても、必ず私有財産制と無制限競爭制とを支柱としてゐない筈の――に進展しようとして『産みの苦しみ』を甞めさせられてをるといへよう。

かうした惱み多い時代に生を享けた吾等は、一面において、確かに不仕合はせでないことはないが、惱み多いだけそれだけ、この惱みを斷じ得るなら、乃至その大業に參ずるを得ただけでも『人類の旗手』たる光榮を分たれる筈であらう。

四　代表的現代思潮の檢察

現代の思潮を概觀して、私は、その代表的なるもの四つを得た。一を社會思想となし、二を敎化主義となし、三を文化主義となし、四を金力主義となす。以下その一々について少しく卑見を述べさせてもらはう。

先づ、社會思想から說かうなら、ひとしく社會思想といつても、マルクス社會主義、その修正派、集産主義、ギルド社會主義、サンディカリズム、無政府主義、乃至クリスト敎社會主義等雜多の種類を含んでをつて、人生に對する見解、及び實際運動の手段についても、中には互に相容れないものさへあり、その各々について說明する暇を今は持つてをらないが、現代の社會組織を否定し、組織惡の斷滅を使命とし、人間らしい生活が各人に許される愛と自由との精神を基調とする新社會の建設を目的としてをる點においては、皆、一つであるといへる。

この社會思想は、その發達の歷史が雄辯に語つてゐるごとく、或る特殊の人の觀念の遊戲から産れたものでは決してなく、實に、人類の大部分を構成してゐる勞働者階級の日常生活から、不可抗的に迸り出づる人間自然の要求――第一次的事實に根ざしてゐるのである。それは『たふときそらごと』ではなく、米と味噌との問題、生きるか死ぬかの生活苦から

發足してゐる。世上やゝもすれば或る種の勞働運動指導者の爲すところを見て、そのブローカー的惡德を糺彈し、引いて勞働運動そのものをも呪咀せんとする者が多々あるやうであるが、これ短見者流の甚しき謬想であるといはなければならない。職業的勞働運動指導者の個人的惡德と、人類の解放を目指す勞働運動の本質とは、截然切り離して考へることを要する。某々國の現狀の如く、官權の壓迫その度を越え、反動思想の橫行また極めて甚しくしては、眞個の勞働運動者は、默して動かざる態度をとるの外ないであらう。又、難ずる者あり、社會思想乃至勞働運動は、その目的實現の手段として『力』を是認するから與することが出來ない、と。これは、宗敎家思想家藝術家等の間に、可なり有力な說になつてゐるやうであるが、私は、難者に對して、かう反問せざるを得ない、『何故に、先づその非難を現存の資本家並にその擁護者に向つて放たないか?』と。彼等は、現代には最早用なき制度、害惡とさへなりつゝある組織の存續を權力によつて計り、依つて以て、民衆の生存を脅してまで、その優越慾所有慾を充たしつゝあるではないか? 相敬互讓、談笑の裡に、交涉が纒るものなら、誰が好んで『力』に訴へようとするものがあらう? 人性の根本的に改まらない限り、かくの如きは、到底望んでも得られないこと、何千年の歷史が之を證してをり、現前の事實が亦之に裏書して居る。吾等は概念に囚はれて聰明を失つてはならない。『力の行使』といふことが、すべてを通じて最善の策でない、好ましい感じを伴はないといふ理由のもとに、いつでも、いかなる場合でも、之を不正だと斷ぜられるだらうか? 萬人の批評に堪へる目的を實現するために、どうしても之に依らなければならないといふ場合に、已が不德を責め、懺悔の心さへ起して、之に當る者があるとして、誰か彼を非難し得る資格があらう? 私は、某々國の勞働運動者として知られてゐる人々の多くが、かうした性情の所有者であるといふのではないが、又、必ずしも現實を度外した空論を弄んでゐるのでもない。ともあれ、社會思想は資本主義の社會組織が維持される限り、その存在理由を失はないことは確かである。

第二に、敎化主義。これは敎化によつて個人の煩惱は勿論社會の組織惡までも斷滅することが出來るといふ信念に立つ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

てゐるものであつて、その淺薄なるは、單に口舌の說教文書の宣傳等を以て、能事終れりとなし、毫も生活に觸れて居ないので、こゝに論評する必要を認めないが、彼の生活に徹してまでの捨身奉仕を躬行し、『愛』を人々より呼び醒まし、人天の供養に虔しく生きることを願じてゐる眞劍の修行者達――私は彼等を暫らく托鉢者の名をもつて呼ばうとする。――に對しては、衷心よりの鑽仰を禁じ得ないものがある。

托鉢者は、他の惡を見る前に、先づ已の罪に眼を向ける。徹しては、世のあらゆる紛爭邪惡苦患にまで責任があると感ずるほどにいたつてゐる。『自由』にその與へられた性能を發揮することに生きがひを見出さうとするよりは、懺悔と報恩の心を持して、ひたすら、他の要求に奉仕し『愛』が人々に芽ばえて、調和ある伸び〱しい生活の各人に許ざれる理想社會の將ち來たされることを懸命のいのりとしてゐる。彼等の中には、このいのりの故に、恩を棄て家を顧なくさへなつてゐる者がある。されば、必ずしも、肉食妻帶を禁ずる戒相をとつてをるわけではないが、彼等の道は、實際において多く出家道の形になりがちである。そこに、文化を知つた現代人にとつて、たふとくもいたましすぎる苦忍のあることは否まれない、たとへ苦忍はやがて無生忍に精進される筈であらうとも。

こゝに出家道といつても、在來の僧侶教役者のとつた態度のごとく、俗諦在家の生活と沒交涉なのではなく、托鉢者の日常の奉仕は、人生の實務そのものになつてゐるのであつて、在家俗諦の成就を本願としてゐるところに、實は、その現代的意義が存することゝ見られる。

又、この在家成就には、在家の姿なりでいくものと、出家の形をとつていくものと、二つのいき方があることゝされてゐるが、その行じ難きことゝ、前者の反つて後者よりも甚しいことをいへば、一見、奇異の思ひをなす人もあらうけれど、親しく體驗した者の行履が明かに之を證して居る。又、史實に徵しても、上下三千年の佛教史中、在家道といつては、僅に『維摩經』一つ說き遺されてあるばかりであつて、聖德太子親鸞上人の生活といへどもそのテイピカルなものとなすことは無

理であらうし、クリスト教系にしても、セント・フランシスの第三教團の生活が、やゝそれらしかつたと傳へられてゐるが、精しい文献の依るべきものがないために、明瞭を缺いてゐるといふ有樣であつて、その如何に至難であるかゞ想見されやう。私に想ふ、在家の姿をとつては、凡庸の身として、辛うじて許されるにちかい生活を營むこと、或は可能であらうけれど、進んで他を成就する光までを、その生活から輝かすことは到底望んでも得られないのではあるまいか、とりわけ、現代のごとき資本主義的社會組織の下にあつては。現代が『他を成就する光』を必要としないなら、このことは、あまり問題をなすまいが、吾等は、種々の社會事象を綜合して考察する時、消極的に『許されるにちかい生活』者であるばかりでなく、積極的に『他を成就する光』をも輝かすことが、何物にも增した時代の要求であると觀ぜずにゐられないのである。釋迦、クリストはじめ祖師開山達が、出家道を選ばれたことに思ひ合はせ、いのりの形の決して輕々に附すべからざるを感じ、道に立つものゝこれに關する省察を乞はずには居られない。

次に、この托鉢道は、人間の煩惱を生活にまで徹して斷滅する方法として、他に多く比類を見ないが、そのいのりが今の形で、權力階級の綜合意志によつて支持されてゐる組織惡までを根絶する上に、果して幾何のはたらきを現實的になし得るものか、乃至勞働運動と如何なる關係に立つてゐるか、靜思の要があらう。

それは、一個人々々が集つて成り立つてゐる社會にちがひはないのであるから、煩惱の斷滅が一個人々々になされていけば、結局社會の改革を見るにいたり、組織惡のごとき何等問題をなさない理窟ではあるが、もと〳〵、社會現象は複雜な性質のものであり、特に社會改革といふがごとき、まかりまちがへばその社會の滅亡を來たす大事件が、さう單純に數學的正確さを以て運ばれようとは想像されにくい。歷史上の實績に徵しても、この事は、明かだと思ふ。

又、人間は、個人として生きる場合と、團體に伍してある時と、その氣分が同一でないものが多く、私人的交際において溫順な人が、多數集會の席上、最も過激な論客として現れることなど、まゝあるものである。それに、すべての團體的

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

行動は、その場合における最も極端な意見に導かれる傾向のあるものであり、それが、不勞所得に食む貪慾な資本家の團體であるとして、如何なる意見が最も勢力を占めるかは、ほゞ想像されやうと思ふが、かうした團體に對して、如何に熱禱をもつてしようと、相敬互讓の精神、所有權の自發的放棄を求めるのは、百年河清を待つの嘆なくはないか。

それから、勞働運動との關係であるが、勞働運動が、資本主義制の崩壞に向つて、全力を傾注してゐるごとく、托鉢者は、資本家の行き方と正反對に、無所有下座奉仕の生活を實證してをり、前者が、階級撤廢の理想社會の建設を標榜してゐるに對し、後者は、皆倶成就大圓覺を懇禱してをるといふわけであるから、托鉢者のいのりが眞劍味を失はない限り、勞働運動を阻害するやうなことは、あり得ないと信ぜられる。

たゞ聊か注意を要すると考へられるのは、托鉢者のやゝもすれば陷り易い缺點として、その生活の安住味乃至その境涯に顯現すべき靈的光耀に心醉するのあまり、社會的知見を無みせんとし、勞働運動ごときに對しても評價を誤らんとすることである。

勞働運動者と托鉢者とは、實は、改造途上に、手を携へて歩むべき無二の親友でなければならず、たゞ、それ〴〵、役割がちがふのみ。一度、兩者の分業協力を見るとき、個人的に煩惱が斷ぜられ、社會的に組織惡が滅せられ、そこに初めて『愛と自由との王國』の、この地上に建設される曙光を仰ぎ得るであらう。

第三に、文化主義。人間には、その性能を『自由』に伸ばしたいといふ抑へがたき要求があるから、取り分け、生活に餘裕あるものゝ間には、意識的にせよ無意識的にせよ、可なりに多く、この主義の實行者を見る。學問を尊重し、藝術を愛好するそのことには、本質上、何等咎むべきものゝある筈がなく、寧ろそれは望ましくさへあるのであるが、かうした惱み多き世相を前にして、尙且、文化主義を敢て提唱せんとする氣持を、私は、問題としないわけにいかない。

これは、既に論壇の一角においても、種々意見の交換を見てゐることであるが、可なり重要な問題だと考へられるから

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

こゝに、少しく卑見を述べさせてもらふことにする。

嘗て私は松井須磨子女史によつて演ぜられた『復活』を見にいつた。もう何年か前のことであるが、その時經驗させられた或る感じが、いまだに記憶の底から折にふれては甦つてくる。どうした拍子か、その時、非常にその劇に心ひかれて自分から進んで見物に出掛けたのであるが、場内に入つて開幕を待つてゐる中に、私は突然不安の念に襲はれ出した。急に、知り合ひの乏しい家々の模樣や、家事にいそしんで寸暇もない自分の家族のことなどが、胸に浮んで來て、座に堪へない氣持になつたのである。さうなると、人に顏を見られるのが面映く、もしや近くに知人でも居はしまいかと、人影に隱れるやうにして、一幕二幕を見は見たが、少しの感興も起らないのみか、不安が募りさへするので、こう〳〵外へ出てしまつた。…………

これは、一時の氣まぐれ沙汰や出來心から、さうしたのではなく、心の奧底からの犯しがたい聲があつて、どうしても、さうせずにゐられなかつたのである。考へてみれば、ほんとうに、世の中には火事がそつちにもこつちにもおこつてゐる。そしてそれは餘所事ではない筈なのだ。それを餘所事と思はすのは、囚はれた人間智と時代錯誤な社會組織の所爲である。生の闘爭より超越し、人間智を撥無し來れ。その時、露堂々と現前するものがあらう。本來の面目と呼ばるべきものか。この境涯に立てば、もはや『自』も『他』もない、大調和があるのみ、大自在があるのみ、實在はたゞ『一』でなければならない。かうした靈的體驗に訴へるまでもなく、少しく留意して吾等が社會生活の現實を考察しても、『自』と『他』との不可分性にはすぐ氣附かされやう。

『火を消しながら花見をする』といふことを倉田氏は言つてゐるが、これは、生活の實際にどう具體化され得るであらう？　時を同じうして、火消しをしたり花見をしたりすることは、もとより、常人の能くする限りではないから、生活を分裂させて、交互的に或は火消し、或は花見といふやうにでもするのか、かくては、その何れにも純一に沒頭し得ない矛

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

盾に果して堪へきれるかどうか、又は、ある火事にだけ出動し、ある花見には加はらないといふ風に、選擇していくのであるか、選擇に迷ふことはないか、その選擇の規準をなすものは何か、或は又、大まかに、生活氣分をいひ表したにすぎないものか、すべてこれ、吾等の了解に苦しむところであつて、もつて生活の指導原理となすことは出來まいと思ふ。

又かの『新しき村』の建設の旨趣にも、文化に對する尊重の精神が、隨分濃厚に出てゐるやうであるが、謂ふ所の文化とは、果してどれ程の價値あるものであるか、文化主義を標榜し若しくは『基督教主義と同じ權利に於て、ギリシャ主義を肯定する』立場から享受し創造し得る文化の內容は、如何なる性質をとるべきものか？ 現實の問題として、各人みな文化主義を持し、性能を『自由』に伸ばすことを專らとするなら、弱者は傷つき敗者は顧られず、社會生活は諧調を失するにいたらう。かくて、犧牲者の流血を目のあたりにして、何の文化ぞや？ 火事が——たとへどんな遠方においてゞも——盛んに燃えあがつてをることを知りつゝも、花見をしてよいとする心は、如何なものであらう？

『世の終りまで、火事が全くなくならうとは想像されない。火事が消されてしまはぬ中は、花見を後廻しにしなければならないなら、美を樂しむ希望は永久に失はれたも同然である。これでは自分として生きるに堪へない。』ことが、『火を消しながら花見をする』道を選ばしめ、捨身主義を擲つにいたらしめたのだと倉田氏は告白されてゐるが、人生の實際が果してこの通りであらうか？ 火消しを本務とするもの、捨身主義を奉ずるものに、美の享受乃至文化の創造がゆるされないと斷定しきるには、これだけのことでは、早計に失しはすまいか？

こゝに一家あり、娘達が『活動』に行きたいといふのを、苦忍してもらつて、その費用を人類愛の名において、ロシヤ救濟資金の中に寄進したところ、その陰德に感じて、娘達に贈るに、すぐれた創作品を以つてしたものありとせよ。娘達は、この淨い贈物を享受するに何の差支があらう？ 又、こゝに托鉢者あり、懺悔の奉仕にいそしめるに、禮を厚うして觀劇に招ずる隨喜者が出てきたとせよ。この場合、つゝましやかにその招待に應じたとて、誰か托鉢者を非難し得よう？

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

而も、かうした例は、決して架空のことではなく、吾等の接するさのみ廣くない範圍においても、稀ならず現實に經驗されてゐるところである。而して又前の『火を消しながら花見をしていゝよい』といふ行き方で享受される美と、許されるにちかい此の立場にあつて觀入る藝術と、いづれ望ましきやは、問はずして明かであらう。

それから『制作に沒頭せんとしつゝある畫家が、門邊の物乞の求めに應じてゐてはその天命を全うすることが出來ない、』この倉田氏の杞憂に同感の人も少くないと考へられるが、私の見るところによれば、繪畫の制作が、ほんとうにその人の天命であるなら、それが天命にちがひないといふ深い自覺がその人にあるなら、制作に沒頭することこそ、彼にとつてその場合での第一義でなければなるまい。但し、天命であるかどうかは、決して輕々にきめられるものでなく、執着を斷滅し人間智を撥無した境涯にあつて初めて冷暖自知されてくることゝ信ぜられる。又、こゝに序ながら注意すべきは、捨身主義の立場からいつても、物乞の求めに、いついかなる場合でも應ずべきものと、器械的にきめられないことである。捨身主義の要は、菩提心を出し合ふにある。されば、菩提心を呼びさまさないやうな態度で、物乞の求めに應じようと、それはたゞそれだけのことにすぎない。菩提心をもぎとるために、物乞の携へてゐたなけなしの財布の底を強ひてたゝかせて勸進帳の筆頭にその名を記した聖僧の深い慈悲は、世にも珍しい話である。ある場合、ある人の爲すべき行が、形に囚はれて器械的に定限されてはならないといふ一暗示にもと、この挿話を書き添へる。

極めて秩序の立たぬ書きぶりであつたが、以上、述べ來たつたところで、文化主義を標榜する者の享受創造する文化の必ずしもすぐれたものでなく、博大、深刻、微妙な内容をもつた文化の、反つて捨身主義に徹したもの、乃至その行履中に使命を文化の創造に發見したものによつて味到され樹立される理ありとなす私の見地は、ほゞ了解されたらうと信ずる。

第四に、金力主義。これは、物質萬能主義であり、享樂主義であり、搾取主義であり、商業主義であり、又、利己中心主義であること、今更、説明するまでもなく、又、その、批評に堪へる何物も含んでゐないのも勿論のことであるが、人

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

性の一面に深く根ざして居るために、是非の論なく、何人といへども、生活の實際においては、之に引き入れられんとする抑へ難い傾向を具へてゐる。而も、私有財産制無制限競爭制をその二大支柱として組織されてゐる現代の社會にあつては、金で物を買ひ、金が人を支配し得るから、殊に此の主義の最も跋扈し易く、今や、滔々たる天下の風潮をなし、思想家、經世家達の懸命の攻究、渾身の努力を以てしても、また如何ともすべからざる勢を示してゐるのは、痛嘆に堪へないところである。先に擧げた文化主義のごときも、社會組織を今のまゝにしては、不可避的に之に依存させられてゐることを、その憧憬者等は思はねばならない。金力の何物にもまして權威を振ふ時、人心がどのくらゐ荒み、如何に多くの惡德が釀されるか、之を想像に浮べるさへ、限りなき憎惡と抑へがたき義憤とを感ずるものが少くなからう。

五　一筋の白道

惱み多き世相と、そこに行はれてゐる主なる思潮とを觀來たつた私は、今、『何をなし』『何處に行くべきか』の問題について自分の立場を明かにすべき順序になつたと思ふ。

私は、この問題を扱ふに、自分の現實な生活に即した理想といふことを、頭から離さないつもりである。

人、世に處して誤りなからんと欲すれば、先づ、何を措いても務むべきは、心の眼を開くことであると信ぜられる。『眼を失はゞ、その暗さ如何に大いなるぞや。』自分の置かれたる環境が明かならず、自分自身を見ることが出來ず、從つて『何をなし』『何處に行くべきか』が、わからう筈なく、遂に、生活に分裂を來たし、廢頽的氣分さへ養はれるにいたるであらう。

心眼を開く方法は、古から種々に工夫されてをり、人間智が執迷の因をなしてゐるところから、禪宗、靜坐法のごとく直接、之を撥無する行き方もあるが、私は、現代の社會苦の性質に考へ、生活に即した修行の形式をとつてゐる前節に述べた托鉢者の道――その代表的教團を一燈園とする――をもつて、最も優れたものゝ一つと考へる。

托鉢の如何なるかは、實は親しく體驗して冷暖自知する外はないのであるからこゝにはたゞその外劃を描くに止めよう。

托鉢者は、修行の順序として、先づ、もてるものすべてを――財、能、身命までも捨てることを求められる。勿論、人間の執着は、容易に取り去られるものでなく、如何に確乎たる決心を以て修行に勵んでも、なか〳〵、根だやしにするといふことは望まれないが、これは全能者にあらざる人間の免れがたいところとして懺悔する外あるまい。さて、托鉢者の

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

日常生活であるが、それは、自然に他の求めに應じて行ずる下座の奉仕となる。この場合、彼の心は飽くまで敬虔でなければならず、身の裝ひは他を害はないものであることを要する。その奉仕に對して報酬を求めることは、いふまでもなく、嚴しく禁ぜられてあるが、障りがないと信ぜられる供養は、拜して之を受けるに差支はなく、乏しすぎる時、極度のへりくだりさをもつて乞食することも許されてある。この、所有たず、執せず、爭はず、報酬を求めず、又、下座を行じてあらはれようとしない、虔しやかな生活樣式によつて修する時、おのづから、人間智の撥無され煩惱の輕減されて行くこと、體驗者の等しく實感するところである。托鉢者の行願が、かくて、いよ〳〵純一に澄み又深められれば、初めの中、しつくりしなかつた氣分や、多少の無理は免れなかつた作務ぶりも、程よく調和され、又、圓熟味を具へてくると共に、人々に菩提心を起させるはたらき、言ひ換へれば、他を成就する光が、求めざるに生じ來り、又、事に處し物に當つて、惑ふといふことが、前の生涯にあつた時とは比較にならぬほど減つてくる。この境涯にいたれば『殉教者の十字架』と外から觀られることも、托鉢者自身には自然法爾の無相遊歩にすぎないだらうし、又、文化の享受創造のごとき、之を此の『人天師佛の大業』に比すれば、行餘の一遊戲事と觀ずるの識見が養はれ來り、彼れの前には光ある一筋の白道、遠く紫雲の間にまで、拓かれてあるのを見るであらう。

かくて、又托鉢者は現代の社會をあるがまゝに理解することを要求される。その結果は、志を同じうする者、相寄り相扶けて團結を形り、社會苦に直面して立ち、ひたすら組織惡根絶を目指して熱禱を捧げることにならなければならない。

現代の社會にあつて、何が問題であるといつて、組織惡のことぐらゐ差迫つた緊急問題――その取扱へ如何によつては社會の衰亡を來すやも知れない――はあるまいし、之れが解決こそ現代人に課せられた最大責務の一であつてみれば、生を現代に享けて、直接にもせよ間接にもせよ、之れに對つて祈りをこめないことは、何人としても許されない筈であるから、若し、托鉢者にしてその祈りが、之れにふれないなら、彼れは、ある意味における偸安者、回避者、乃至獨善主義者との識りを免れまいと信ぜられる。

托鉢者の祈りが、ひとり、個人の煩惱に對してのみならず、社會の組織惡を目がけて直接さゝげられる時、初めてそこに人間久遠の欣求『愛と自由との王國』への第一歩がしつかり踏み出されたと見るべきであらう。（一九二一・一二）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ながれる太根

三石勝五郎

（宮崎安右衛門さん著
「聖フランシス」の序に
天香さんはかゝれました）

小坂に近く川ありて
涼しくながる

腹へりて食もなく
町を出て秋の陽冷めたく見入りたる
天香さんはこのあたり

やれ〳〵うれし
ながれくる太根一つ手に取りて
押しいたゞいた
心に慈悲の雨がふる

小坂に近く川ありて
涼しきかげに我れひとり
今日はろ〳〵と師を思ふ

――小坂鑛山に近づきて――

稱佛

「わしが死んだらきつと一人
彼の世につれないでおかない」

母に會ひたき願から
私の母も
佛を呼びつゝ逝きました
雨の夜に遠く稱佛

極重惡人唯稱佛
我亦在彼攝取中
煩惱障眼雖不見
大悲無倦常照我

手を合はす日さきにちらと
輝きて
すべり出た影は母様か

極樂遠く
目に見えて
近くよる魂
ほのかなる影に息づけば
さびしき足どり

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

忘れたる母様は
心のかげに火をつけて
今宵まします

雨ふる夜の
美しき夢

福田

福田とかゝれた白扇は
吹きとばされて
草野の中に

白扇は旅人の手に拾はれて
女の許へかへつたが……

あづかつた夢の犬ころ
腕に抜けて
白い雨ふる
今朝の窓

道ばた

名もなき國の道ばたに
無縁佛の立つほとり
袖すりあへる影落ちて
青草むしる翁と又
若人の手先に
夕立が來た

惡魔

夢の如く種子をまき
蹴散らしてとぶ蟲よ
惡魔はいつも此處にゐて
胸に巣を掘る

けしの花の
赤きうれへ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

たゞ、師に從へ

伊豆から
京都に送られて
濟世病院で、あゝ、途に
七月二十三日、肺で死んだ
T兄よ

兄と別れる前の晩でした
「一切を捨てゝ師に從へ
振りはなされても〳〵
たゞ合掌低頭して師に從へ」
一念こもる悲痛な言葉を遺して下さいました

おゝ、兄よ
今は何處か
遠くの空から呼んで來る小鳥のやうに
靈はなつかしく私を抱く

私を救つて下さいましたお言葉は
「たゞ、師に從へ」
おゝ、それでした

おゝ、あの一身をひたすらに托する
あつき誓願
今も、私の眼前にひかる
兄の顔よ、姿よ、あの何處までも
やさしい謙遜よ

病は兄をみちびく信仰の母であつたか
おゝ、私の、もてあましたる健康に——
僅かばかりの
かぜを引いて
咳する穴からさびしく
拜む兄よ

心の燭を灯して栗の實落ちる
このかぜの夜も、私を訪れる
兄よ、今も呼びに來るやうに

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

私の心の、おごりたかぶる時
はたさびしい時
いつも來て、みあかしを垂れ給へ

——大正十一年十月　故田中太一兄を憶ふ——

松下兄に

上戸塚に、藤井様をお訪ねした時
おゝ、兄よ
「松下さんは今朝栃木へお歸りなさいました」
さ、留守宅の奥さんが
風引いたしんちやんを看護しながら言ふ

おゝ、玄光社
ほんに土の冥府からさすひかり
又黒壁のかげに歡喜して
靜かに微笑をもらす朝日の口づけか
否、さびしくも十字街頭に
黒衣の托鉢者をまもる
高き御空よりこぼれるひかり

否、否、心の中にさすひかり
もえあがる胸のほのほを打消して
しゞまに呼び合はす靈と靈とのひかり

おゝ松下兄
秋田から、北海道、樺太への
行脚を終へて、今、今
東京へ私は戻つた——
小さき靈は、わけもなくひさり
さびしさに震へる

——十二月六日——

* * * * * * * *

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

田ノ澤鑛山訴訟事件について

――(大阪朝日記者の問に答ふ)――

西田天香

記者『一燈園の西田天香氏が民事上の訴訟を提起したといふ事が新聞に出ましてから隨分世間に問題になつてゐますが其眞相が聞かれますなら伺ひ度いと思ひます。』

答『どうも皆樣をさわがせて濟まん事です。見やうによりましては大した事もないのですが、あゝ新聞に出てみますと、可成りに一燈園を知つて下さる人を心配させますやうであります。何分私の身の持ちかたが複雜ですから、內輪へ這入つて見ない人には、御迷惑な事が時々あります。すまん事です。』

記者『內輪にはいつてゐる人には大してつまづきにならんのですか？』

答『ハイさうです、ならぬ筈なのです。』

記者『それはどういふ譯ですか。』

答『私が一燈園生活の外に宣光社の規範を作らうとしてゐる事を了解してゐてくれますから。』

記者『では此度の訴訟は一燈園生活の機能ではないのですか？』

答『ハイさうです。私一人で二つの事を試みて居りますのが少しく無理な事である事を許してもらへるならば、此度の事は一燈園の當番の西田天香がした事ではなくて、宣光社の試みをしてゐる當番としての西田市太郞がしてゐるのだと言へるからです。然し私は强ひてさう思うて下さいといふのではない、理窟を言はれゝばなんぼでもいはれますから。』

記者『イヱ私はあげ足をとつたり理窟を言はうとするのではないのです。折角今世間に注目されてゐる一燈園生活がつまらん誤解のために其の發育が害されるのを惜しいと思ふ爲めに、遠慮のないあなたの說明を聞いて紹介する事が出來れば全體の爲めによいと思ふのです。』

答『それは御親切に有難う。けれど申せば少し長くなりま

すなあ、根本的に申さいでは、さしあたりの辯解みたやうになりますから……。』

記者『長くてもかまひません。根本的なのが結構です。私も一燈園と宣光社といふ事はきかぬではないのです。又その二つの機能に深い興味を持つてゐる者です。』

答『さうですか、實は私の同人を大別して二つにしてます。一つは一燈園生活だけに興味をもつ人等で、他は宣光社をも試みる事に興味をもつ人達です。前者は宗教と教育に關係ある考察をする人に多く、後者は經濟と物質問題を研究する人に多いのです。又思想家は前者に興味が多くて、實際家は後者を兼ねてゐる事に興味をもつのです。フランシスカンの事を、私くはよくは知りませんが、フワーストウオーダーは前者にあたりますさうで、サードウオーダーは後者に屬するさうです。實は一燈園生活をする人にも、尾をひいたやうに、その家庭には宣光社の規範が應用されてゐるのです。家を出て來たあとの始末が宣光社の規範で知らず知らず整理されてある爲めに、無事に一燈園生活が出來てゐる事が多いのです。けれども、その人自身すらその事に氣付かない事もあるのです。拙著、『懺悔の生活』のはしがき『本書について』のなかに、

『一燈園』を暫く無所有の生活淸規としますなら『宣光社』は所有の經濟規範というてもよろしい。此兩方へなり又いづれへでも呼ばれて行く私等同人の宴座しまする本地をば『天華香洞』と名けてゐます。勿論此生活はこれで獨立して徹底さす必要と可能とを認めますが『宣光社』としての色々の整へかたと對照せいでは『不二の光明』の全體が鮮かになりませぬ。市太郎としての宣光社の試みは隨分友達に心配をかけて居りますが追つてこの分をも懺悔を兼ねて編まねばならぬ事となるでせう。』

とあります通り、此の二つの機能を、むづかしく言へば、もう一つ此の兩方へ出てゆきます。『本地』なる天華香洞の境涯が兼ねそなはりませいでは、完全でないのであります。からして實際問題を整理せいでは落ち付かない現代の求道者は、言はず語らず此の三つの必要を感じてゐるのであります。『天香が訴訟した』といふみかたは、早合點にすぎた見方です。二つの名は一人でないか、と言はれゝばそれまでゞありますが、了解してゐる人は宣光社の機能を代表してやつてゐるのだと知つて居ります。あづかつて居ります鑛山が、未成品で財團法人にする迄にならない間は止むを得ず私の名になつてゐます。其の鑛山で一燈園を維持してゐるのかと思ふ人がありますが、是は全く反對です。一燈園の福田で鑛山の方を助けてこそ居れ、鑛山の世話にはな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

らないのです。園の生活はどこまでも無所有で徹底させて居ります。私の家庭が鑛山のそれから養はれないのみならず鑛山に少からぬ奉仕をしてゐるのです。けれどもそれは『おひかり』のもので、終極に於て一切の爲めに捧げらるべき筈なのですから、私等や園の奉仕は意義のある事です。更に遡れば此の鑛山はさうした事にせねばならぬ運命を持つた事だと私は信じてゐます。澤山な犧牲者もあります。』

記者『だいぶ分つて來ました』

答『最近は私のお連れが金を出してくれました。それは出資で、返さねばならぬものですが、大部分は清淨な氣持ちで理想を助けてくれてゐるものです。一言半句の催促もせずに、默つて私を信じてゐてくれられます。預けられた仕事とはいへ、又宣光社の規範の一つとして、其の內容には隨分樣子の變つた試みを含んでゐるとはいへ、それが事實に物質的に成功せない間は、私の夢は安らかにないのです。幾度か潰れやうとしたなかゝら未練とか執着だとか言はれながら、私が片手で抱いて來たのも、盡すべきは盡さねばならぬのと、一つは淸い同情の出資を返したい爲めなのです。私の仕事と見られたとて辯解はしませぬが、內容はかうした關係で、血の垂れるやうな實際の規範資料に成つてゐるのです。一つの鑛山位を力にしてゐるのではない、因緣あつて預かつたものだから、粗末にせぬだけの事であります。』

記者『預り物なら預物らしく自分の名にせねばよいと云ふ人もあるやうですが？』

答『御尤もなお話ですが關係者の內に全體が同意する預り人がないのです。また正式に言へば宣光社を、第一第二第三と分けてゐます。第一は義務の伴はぬ清淨な財物。第二は第一の財物を中心として外に寡慾の資本と勞力を添へたもの。第三は普通の經濟機能に、一燈園の氣持を取り入れたものであります。一燈園生活者が、第一宣光社の預り主になるのは何の障りも起りませんが、第二は寡慾の資本でも義務を持つてゐますから、一燈園生活者が預ります時は、間違ひの起つた時に、第三者をつまづかす恐れがありますだからしてはよくないのです。此度の鑛山は第二の分に屬するのでありますから、私の名で預るのはよくない筈になつてゐるのを已むを得ぬ事情で試みてゐる爲めに、此度のやうに皆に心配を懸ける事になつたのです。是は適當な機會に私が詫びる事になつて居ります。

記者『宣光社は、一燈園の別動隊のやうに言ひ、又宣光社の儲けた金で一燈園を宣傳擴張するもの、やうにも言ひますが、貴下のお話に依りますとさうでもないのですね。』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

答『ハイ、丸きり反對です。一燈園は此の生活だけでずん〳〵とのびてゆきます。すると財物が淨化されて來ます。此淨化された財物をどう扱ふべきかを試みるのが、宣光社です。一軒の家へ園の生活が這入りまして、其の家人は一燈園の氣分になつたとすれば、その財産は其の時から宣光社扱ひになるのです。宣光社があつて、一燈園はたつのではなくて、園の生活が始まつて宣光社が生れるのです。』

記者『成るほど、そこはよく解りました。では園の生活の餘分にたのまれた事をやつてゐる形ですね。』

答『まあさうです。何物をも持たないでも愛によつて生きる事が出來る證據は園の生活で明にされます。が、持てばどうするのぢや、この難問題が別に殘ります。これに答へたい爲めの試みが宣光社なのであります。』

記者『そこはよく解りました、が、一體その試みは成功しませうか？』

答『なか〳〵問題です、が、試みない譯にゆきません。賀川さんは、曾て一燈園は認めるが宣光社は駄目だらうと心配してくれられたと聞きました。高楠博士も園の生活は解つたが、宣光社が見ものぢやと、勵まされました。一燈園生活だけならば、物質運動者から滿足されさうにもありません。一燈園生活が基調になつて、物質問題も整理する事が出來る處に、私の興味があるのです。生活をはなれての信仰はない。信仰をはなれての生活もない。園の生活は働きと祈りとを一つにはしてゐますが、更に無所有で獨立し得る內容を持つて、あらゆる組織を『おひかり』化するまで行かねばならぬのが私の使命です。それは可成に危い試みでも、私だけはやつてみたい。手を燒いても、自らやつた事でないと證明になりません、此度の事は其の手を燒いた一つなのです。』

記者『成程それはよく解りましたが此度の訴訟はこちらから仕かけたのですね』

答『形はさうなつてゐます、が內容は理由なく取られかけたものを取られまいとする働きなのです。私の粗忽から、重複になつた證書が働いて、十名ばかりの債權者からの預りものを、取られやうとした時に、其の實質の債權者が債權を免恕してくれられた理由によつて、とられかけたものが取られずに濟むやうにこの要求の訴へなのです。宣光社は侵されず、侵さず、この標語を持つて居ります。借りて返せぬやうな時には不已得侵した形にもなりますが故意に侵す事が出來ないと同時に、又侵されないだけの用意が必要であります。でなければ惡のある世界に物を預ける事は出來ません。斬りかけられたのを危く受け止めたゞけの事ですが、手續きは、秋田では仕かけられて、京都では仕かけた形になつてゐます。相手が友人なので一層精神的に悲愴でありますが、友人も私の事を思うてやつてくれたのかも知れません。慈悲の答かもしれませんけれど、他の債權者も承知はせず宣光社としての私でも預りもの、權利の擁護はせねばならぬのですから、こんな事になつたのです。し

かし互に解けあへる内容をまだ全く失つてゐるとも思ひませんから、大した事にもなりますまい、が、つまる所私の不德なのです。』

記者『裁判所で被告側の辯護士が、貴下は鑛山を喰ひ物にしてゐると言うたさうですが……』

答『さうですか、辯護士さん同志ではまあさうも言ふでせう。私の名で持つた山に友人が金を出してくれたのですから、鑛山を喰つた形ですね。一つの事業をするになかなか容易なものでなく、間接に世話した間を通じて十九年にもなるのですが、私の名でなくとも隨分人に苦勞をかけた鑛山なのです。その鑛山を預つてゐる間に、精神的にはいろ〳〵の所得を數へられぬ事もないのですが、それは私の心のなかで微笑んでゐるのです。出來上るまでは關係者に對しては『申譯がない』との一句の外はありません。私は此機會に、債權者の重な人に賴んでゐる事が有るのです。それは誰れかに預つてほしいといふ事を……預り甲斐のない私の不德は詫びますから、此度の權利の擁護と引きつゞき後の世話とをしてほしいのです。『宣光社の規範は作りはするが私の名で山を預る事だけは免して下さい。多くの人をつまづかせる懼れが有るから』と申してゐます。何とかしてくれる事でせう。責任の回避は出來ぬが宣光社と一燈園を通じてそれが有理と視たら免してほしいのです、何んとかなるでせう。此間山の留守を預つてゐる人が山へ歸る時に村上華岳さんから貰つておいた、有名な高野の赤不動の大きな寫眞版の裏に私が筆を清めて『おひかり』を書きとうぞ不動樣、此山を一切の爲めに護つて下さい、私が惡かつたら叱つて下さい……。外に何かいま少し書いて持たせて歸した事でありますが、まさか居眠つて居給はぬでせう……然しまあ、私には何事も善巧方便なのであります。』

記者『大部話がしんみりしました、只の鑛山のやうな氣がしないですね。』

答『ハイさう聞いて下されば申しますが、抑私が世話せねばならぬ破目になつた初めから全く普通の經濟を扱ふそれとは動機を異にしてゐたのです。

『よその金山金しか掘らぬ
こゝぢや心の玉を掘る……』

この鑛山歌が、私の此の山に晋山した時の偈であつて、元山を奥の院と呼び、事務所を本坊と名をつけました。坑夫を坑夫さんと呼び役員は下座を行じて居りました。吉田と云ふ人や私等の生活は坑夫さんの生活よりも低かつたのです。五年前に會社にしやうとした時の主旨書は、澁澤子爵が、是は資本主義でもなく、民本主義でもなく、神本主義とでも言ふべきか、などゝ言はれたのです。こんな事を語り出すと際限がありません。興味が有つたら又別の時に話させて貰ひませう。此度の問題が有つてもなうても、今は一整理期です。一燈園生活の方があまりに忙しいので後れがちになつてゐます。長くなると埃がかゝるものです。遠からぬうちに、又一度懺悔を深め度いと思ひます。

之を要するに此度の事は、一燈園生活に關係ないのです。宣光社の機能であります。さうして其内容のあらましがこんな事です。』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

夏期托鉢會の記

佳田埴彦

昨年の夏、七月から八月にかけての一ヶ月、夏期托鉢會といふものを開きました。其の報道といふには、大層遅れて了ひましたが、昨大正十一年内の、一燈園關係に於いて起つた事柄の一つとして、會の模樣を少し記させていたゞきませう。

天香さんが因襲的な前生涯から、妄執の羈絆をずばりつと斷ち切つて、此の新生涯に入られたのは明治三十五年、師が數へ年三十二歳になられた年のことであつた。多岐多端な十幾年、二十年に近い歳月は其の間に經過したのであつた。それは師自身としても、また一燈園としても、決して樂な安易な歩みではなかつた。或る時は狂人と呼ばれ、或る時はまた危險人物として官憲の蒼い猜疑に充ちた眼で睨まれ、刑事の尾行を受けたこともあつたのである。而して其の存在は、一部少數の人々の間に辛うじて知られて居るだけで、勿論世間一般からは何の顧みられるところではなかつた。

天香さん、一燈園、といふ名前が、多少世人の注意をひくやうになつたのは、まだ僅々三四年此の方のことであらう。倉田百三さんや宮崎安右衛門さんの著書を通じてであつたいろ〱の人から慫慂されて、一昨大正十年七月『懺悔の生活』を著した時は、天香さんもその周圍の者達も、此の無名の一著者の、而して、所謂現代文化と逆行し、貧乏無一物のどん底に、下座行乞をして居る如き人間の生活の記録が、今の世の、益々享樂的に、唯物的に傾き、赴かんとしてゐる時代に、奈何して喜ばれやう、其の如き著書がはたして賣れるであらうかどうか、此の出版を引き受けてくれた本屋さんに余りの迷惑をかけるやうな結果になりはせぬかと、危ぶんだことであつた。豫想に反して、本は驚ろかれるほどの賣行きを示した。新聞や雜誌なぞに天香さんや一燈園の生活が書かれるやうになつたのはそれから後のことである。其の結果として、京都の一燈園には、非常に多數の入園希望者が出來てきた。

『來者不拒、去者不追』光の緣に觸れ、共に與に道を歩む同行として、余りに見當違ひの願や目的の人でない限り、若し園が其の人々のために一箇の道場としてお役に立つならばといふ考へから、頼つて來られた方には、居ていたゞいてゐたが、元より一燈園は狹い小さい建物なので、さう一度に多數の人に來られては、お互に憩む場所にも窮するやうになり、亦當番としても行き屆かぬところから、いろ〱の弊害も生じ勝ちになるので、奈何しても此の生活に入らねば居られぬといふまで眞劍に行き詰めた人ギリ〱の心で精進をして行かうといふ決心の方の他は、大方お斷りするやうに餘儀なく方針を變へることにした。併し、そ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

れでも入園希望者は減らぬばかりでなく、いよ〳〵増えてくるのであつた。

申込みの大半を、當番は抑へ、或はお斷りしてゐた。

其の入園希望者の大多數は、彼等自身を此の生活、一燈園生活に由つて更改し、その全生涯を是の一行によつて歩んで行かうといふのではなく、多少の月日の間修業してそれ〴〵の生活職業の中に味はひたいといふ志望の方々であり、乃至は暑中休暇の一二ケ月の間在園して見たいといふ心持の方も多數を占めてゐた。

一切の世間的慾望、覊絆を捨離し、出家沙門の心で入園される方は勿論園に取つて貴い同行の人である。併し、又、其處には其の心を有つてはゐるが、家庭的の事情や境遇からそれのなしえぬ人もある。また捨離出家して迄もといふ處までは心願發起はせぬが、幾分なりとも、現在のまゝの生活の中で行ひ、味つて、道を進みたいといふ希ひの方もある。而して、その何れも、園に取つては、難有い同行であり、光の緣に觸れ、導かれ行く同朋である。

で、かういふ方々の御希望にも、何とかして添へたい、適へたいといふ考へから成り立つたのが、此の『夏期托鉢會』といふものであつたのであります。――一體かういふ試みをしてよいかよくないか考へれば、種々問題とならぬこともないが、兎に角、前述したやうな次第で、させられることになつたのである。

●『晝間は托鉢、夜間は天香さん始め園關係者の講話を聞く』といふことにして、大體の下相談が天香さん、相武次郎さん、森川禮次郎さんの三人で出來上つたのは七月十五日の晝であつた。

會員の宿泊所兼講演會場としては、家政女學校の大島徹水師が快くその教室をお借し下された。

幹事には前記の相さん、森川さん、の他に、守屋秀顯、木暮侶乘、三原經喜さんの三人が當られることになつた。七月十九日、五幹事が聚まつて、いろ〳〵具體的問題を討議し、開會を決定した。入園希望の手紙を戴いたり、申し込みを受けたりして待つて貰つてゐた人々約二百人程に案內狀を出した。

會期は七月廿四日から八月廿五日迄一ケ月といふことに定められた。會員は廿三四日頃から次第に集まつた。中には遲く八月半頃に來られた方もあつた。在會日數は一樣でないが合計百四人の入會者があつた。

職業列の數字を取つて見ると、

敎師(三三)　學生(三〇)　無職(主として婦人二〇)
農(一二)　商(三)　工(二)　公吏、會社員、記者、軍人(各一)
中、男八十三人、女廿一人

年齡では、二十代の者が最も多く、次は三十代、十代といふ順で、六十代の方も一人見えてゐた。

日常の規定は大體を鹿ケ谷の一燈園の型に則つた。朝五時起床(實際は四時か四時半に起きられる早起の方が大部あつた。)二階の大講堂で靜座讀經、托鉢、夕方六時頃歸園

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

夜七時から九時まで聽講、拾時就寢。

洋服姿で御所の廣場の草拔りに行く人や、頭髪を綺麗にオールバックに撫でつけた學生さん、立派な髯を生やした紳士が衛生掃除に行つたり、女優髷に美しい絹の單衣を着た見るからにお孃さん然とした女の方が他所のお家のお勝手仕事の托鉢に出掛けたり、其の間にさまぐ\の珍談滑稽も尠くなかつた。

非常に熱心に托鉢された方もあつた。併し、其の反對に、殆んど托鉢にも出ず、避暑がてらの所謂夏期講習會的氣分で居られた方も多少見受けられた。

『洋傘と毛布一枚とは是非御持參願ひます。』

と案內狀の中に書いておいたが、中には持參なさらなかつた人も多少あり、それに幾ら眞夏の暑い時とは言へ、殊に京都は夜間冷えるので、蒲團を何とかしたいと思つたが、急に百人餘りの大勢の分を調へることは全く出來ない相談であり、また物を調べる費用なぞは元より一文無しの一燈園のことゝて、仕方がなしに、いつも園から托鉢に行つてお馴染になつてゐる師範學校へお願ひに行つた。而して特別の好意で、赤毛布の古いのを五十枚ほど借用して間に合はせた。

蚊帳も、初め一日は吊らずに寢たが、蚊に攻められて、皆、終夜まんぢりとも出來なかつたので、幹事一同八方に奔走して、漸く五六帳借り出して來た。

一番困つて一番上手に出來たのは枕だつた。之れは守屋さんの發案で、家政女學校の生徒さん達が落したり捨てたりしたハンケチの遺留品が澤山あつたので、學校からそれをいたゞき、洗濯した。志賀博子さんと井頭さんとがミシンで嚢に造り、其の中へ學校から燃料用の木屑を戴いて詰め込んだ處が、なかく\上等の枕が七十個餘り速製された。博子さんはリウマチスで歩行も不自由な足で、機械を踏んだりなぞ、大層熱心に働かれた。

●八月十六日、一日おくれで大概の年中行事を營む京都では、此の日が盆供養の日である。

天香さんの次男の透石さんと、園友田中太一さんとは、何れも長い間東寺の濟生病院に入院してゐた。而して二人とも七月の下旬、相次いで亡くなられたのであつた。其の他にも、尙數人、一燈園とは深い關係にあり、其の靈は同人に由て弔はるべき故人がある。此の日には夫等の人々や、乃至園同人の各先祖代々の靈を追悼する例になつてゐる。例年は鹿ヶ谷の建物の中で營むでゐたのであるが、幸廣い講堂をお借りしてゐるので、その法要は此處で營まれることになつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

而して此の大勢の人が集まる機會を利用して、常に園から托鉢させて戴いてゐる諸家の方々に御來會を乞うて、天香さんから挨拶をしていたゞくことにした。

會員、園の同人以外にも、二百人程の會集があつた。法要の式は簡素に、然し、嚴肅に執行された。

始めに相さんの挨拶、次に中村無外さんを導師として同人一同の維摩經の諷誦があつて、天香さんが挨拶に立たれた。『此の生活をして居る者には、特別に先祖や緣者の法要は必要のない譯なのです。念佛の心を持して行つてゐる托鉢、懺悔奉仕の生活は不斷の法要である。』と言はれた天香さんの聲は强かつた。併し、同行であり、苦艱を共にした處の然も今は此の世に亡き人々の事ども憶念され乍ら語られた時は、流石にみんな濕(しめや)かな心情(おもひ)に打たれた。

●講演は大體次の如くであつた。

七月廿六日　松下吉衞氏　（現代の經濟生活と懺悔奉仕の道）
廿七日　森川禮次郎氏　（人生觀、結論、魂）
廿九日　大澤金一郎氏　（一燈園生活に就て）
高橋正雄氏　（成るやうにしか成るものでない）
卅一日　松井愚學氏　（一燈園生活に入りし當時の追憶）
八月　二日　中澤貞次氏　（入信の徑路）

三日　大島徹水師　（初期一燈園の追憶）
安藤洲一師　（阿彌陀經と般若心經とより見たる有の思想と無の思想の考察）
五日　足利淨圓師　（愛に就ての考察）
七日　清水精一氏　（凡入道としての一燈園生活）
八日　松井愚學氏　（叡智と運命）
自九日至十三日　安藤洲一師　（陽明學講義）
十七日　海野鏡圓師　（吾が宗敎的體驗）
自十八日至十九日　西田幾多郎氏　（マイステル・エツクハルトの神秘思想と一燈園生活）

此の他に天香さんは、隔日めに引續き一燈園生活に就てお話された。

何分一燈園としては初めての企てゞあり、幹事達も皆かういふことには馴れてゐなかつたので、隨分間違つたり、失策を出來したこともあつた。其のため、折々、遠隔の諸地方からわざ〳〵來られた眞面目な會員、眞摯を求道の方々に或は不快を或は不滿足を感じさせたやうのことがあつたかもしれぬ。それは關係者一同切にお許しを乞はねばならぬ處である。

期間は都合でや〻早め、十九日に會を切上げ、廿日朝解散した。

會期中のこと、書けば多くあるが、大して要もないこと閑談冗語に流れるを恐れて、これ位で筆を擱くことにする。

（大正十一年十二月十一日記）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

◇燈影餘錄

本誌もとつて十九の新春を迎へることになりました。若人らしい純眞と情熱とそして謙遜とを生命としていかうと思つてゐます。たゞ天香さんはじめ同人は街頭の行乞を日々のつとめとして居り、行餘の暇に筆を執るといふことになつて居りますので、必ずしも毎號とも記事の充實を期するといふわけにいかないのは、編者としてほんとうにすまなく感じてゐます。●思ひもよらぬことから訴訟までもさせられ少からぬ御心配をおかけした田ノ澤鑛山も、近く示談ができるわけになつたと、京都宣光社からお知らせがありました。『侵さず侵されず』を標榜して居る宣光社とはいへ、如何に仕掛けられたからというて、訴訟にまで走ることは、よろこばしくないにきまつてゐますから、たとへ犠牲の値は少くないにせよ、和解の成つたことは、何よりであり、又これを年頭において諸賢にお知らせすることに一しほのめでたさを覺えます。天香さんは、たとへ、一時的にもせよ、かうまで事件のもつれたことに對して、いたく自責を感ぜられ、背任罪として自首せんとまでせられたが、法律上それが許されないものですから、他の何等かの方法で近く身を以てお詫びの實をお示しになるというてゐられます。●『托鉢行願』が愈でました。本の脊の金文字が、天香さんに書いて戴いたのより廓大されてゐて、少しつゝましさがどうかと思はれる外、表裝などもずゐ分いゝと思ひます、慾目かは知れませんが。大抵の人が二圓廿錢では安いと言つてくれるので、出版元に對して定價の最低限度を懇望してやまなかつた私はホーッとしました。『托鉢行願』よ『本』の形をとつた『托鉢者』として、その名にそむかない眞に生きたはたらきをしておくれ。——私が主として編輯その他に當らせられた爲めか、ほんとうに、こどもが産れた時のやうな氣がして、こんな風に祈らずにゐられない親心を感じます。●東京一燈園同人の動靜は、當番制改革後も大して變化はありません。ある人は市内に又ある人は近縣にそれ〴〵の因緣で行乞されてゐます。たゞ人が足りないので、多くの方に思ひながら御無沙汰がちになつてゐることはおわびする外ありません。●横濱の非土ヶ谷尼將軍下一〇四八に一つの建物を惠まれましたので、横濱一燈園が開かれることになりました。目下、植松、拜田兩兄が居られます。十二月十六日には、そこで、京濱の同人の集ひが催されました。これからは、『黑筒袖』の人が横濱の街頭にも見られることでせう。御用もあらば、どうぞ、奉仕させて下さい。これは、特に在濱の諸賢にお願ひ申します。●宣光社の十二月例會は、いつもの通り五日夜に開かれましたが、出席者が少かつたので、寂しう御座いました。近縣に出掛けてゐる同人方の御見えにならなかつたのは、金錢の形の御供養の乏しいためもありましたらう。又手離せない看病の托鉢に行かれた兄姉のおいでになれないのは已むを得ません。それでも十人たらずの同人は揃つて、しんみりした團居を惠まれました。托鉢の經驗を語り合ひ、これから進まうとするいのりの形について所見を述べ合ひなどし、また不參者の誰彼や、京都の天香さんあてに數葉の寄せ書をいたしました。●品切のために高需に應ずることが出來なかつた本誌の號數も此度とゝのひましたから京都市柳馬場三條下ル宣光社に御注文下さい。但し創刊號二號の再版は少しひまのいることゝ存じます。●前號に頂戴した中桐教授の『托鉢の意義』は多くの人々から歡ばれました。一燈園生活を疑惑の眼で見て居られた方が、あれを讀んでハッキりしたとわざ〳〵言うて來られた實例もあります。御多忙の教授には、ほんとに相すまないのですが、今後はなる可く毎號とも御執筆煩はすことにお願ひ申しました。又題材の都合上、折角御寄稿下さつた磯山兄の和歌を本號にお載せすることの出來なかつたのを、序ながらお詫び申します。●年頭の御挨拶を頂戴しながら、諸所托鉢の同人達のことゝて、心ならずも缺禮になることもないではないと存ぜられます。どうぞ御ゆるし下さいますやうに。（敬偉無）

大正十二年一月十日印刷納本　代金
大正十二年一月十五日發行　廿錢
編輯兼發行兼印刷人　東京市牛込區原町三丁目五十三番地　中桐確太郎
印刷所　株式會社一匡印刷所
發行所　東京市牛込區原町三丁目五十三番地　東京宣光社

一燈園 西田天香著

托鉢行願

定價貳圓廿錢
書留料拾八錢

四六版黒布表裝四百頁

新刊

苦惱に滿てる人生混沌として鬧き社會を救はんがため二十年の星霜を懺悔奉仕の托鉢に送りたる天香師が虔しやかに世に贈るこの尊き我等の福音書を見よ

師の日常生活は、人の家に入りて下駄を揃へ庭を掃き便所を潔め納屋を整理する、一見殊更に奇異を装ふ如く見ゆれど、然らず、一切の我執に放れ心欲を擲ち、不二の光明によつて復活新生する。世間一切の罪惡何人がその責を脱るゝを得べきとして、懺悔の心からなる十字街頭の奉仕をする。一燈園に心の庵を結ぶと雖も別に一宗を立てるにあらず單に一宗に偏るにあらず古今聖者の光を仰ぎ德を頌し、その遺されたる事業——人間苦世界苦救濟の願を成就せんとするものである。この祈願に卽した實生活——もたず、うらずして人天のくやうに生きる天香師の全姿態は本書の殘らず盡す所である。

相馬御風著

大愚良寛

越後の隱聖良寛和尚の人格と藝術はその沒後百年に近き今日突如として異常の光輝を認められた著者は良寛研究者の第一人者として識者に知らる。

定價二圓七十錢
書留送料十八錢

東京日本橋通
振替一六一七

春陽堂

電話本局五一
四二一〇

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN